

# 栃木県がん対策推進計画(4期計画)(概要)

【R6(2024)年度ーR11(2029)年度】

## 計画策定の趣旨

- ◆ 県内では、令和元(2019)年には、15,000人を超える方が新たにがん罹患し、5,700人を超える方ががんで亡くなっている状況であるが、これまでの取組等により、がんの75歳未満年齢調整死亡率は低下し、5年相対生存率についても6割を超えるなど、がんの予防や治療を取り巻く環境整備は進んできている。
- ◆ がんの生存率の上昇に伴い、がん患者及びその家族ががんになっても安心して生活できる社会の構築がこれまで以上に求められてきており、悩み・負担等への相談支援、緩和ケア、治療と仕事の両立支援、さらに、小児・AYA世代や高齢者をはじめとしたそれぞれのライフステージに応じた支援など、個別具体的な対応が必要とされている。
- ◆ 自治体や医療機関、関係団体等との密接な連携の下、がん患者及びその家族に関する県民の理解が深められ、地域社会全体で支え合うための取組を推進するため、新たにこの計画を策定する。

## 全体目標

県民一人一人ががんの理解を深め、がんの克服を目指す社会を構築する。

## 基本方針

「がんの予防及び早期発見の推進」を基本として、がん患者等の状況や地域の実情に応じ、「がん医療の充実」を図るとともに、「がん患者等を支えるための環境づくり」を推進するため、県、市町、県民、事業者、医療関係者等が一体となって、がん対策を総合的かつ計画的に推進する。

## 基本的枠組み

### I がんの予防及び早期発見の推進

#### 1 がん予防

- (1) たばこ対策
- (2) 生活習慣の改善
- (3) 感染症対策

#### 2 がんの早期発見の推進

- (1) がん検診の受診率向上
- (2) がん検診の精度管理の促進
- (3) 職域における取組の促進

### II がん医療の充実

#### 1 がん診療体制の充実

- (1) がん医療の均てん化
- (2) がん医療の集約化

#### 2 がんと診断された時からの緩和ケアの推進

- (1) 緩和ケアの充実
- (2) 地域における緩和ケア提供体制の整備

### III がん患者等を支えるための環境づくり

#### 1 相談支援・情報提供等の推進

- (1) 相談支援・情報提供の充実
  - ア がん相談支援センターの活用向上
  - イ 相談支援体制の充実
  - ウ 情報提供の推進
- (2) がん患者等の就労支援
  - ア がん患者等が働きやすい職場環境づくり
  - イ 就労支援体制の充実
- (3) その他の支援

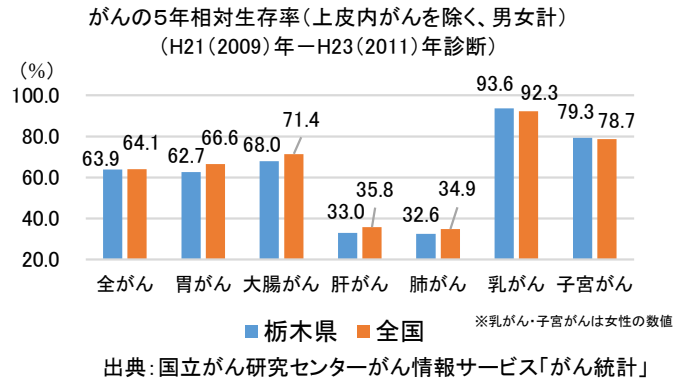
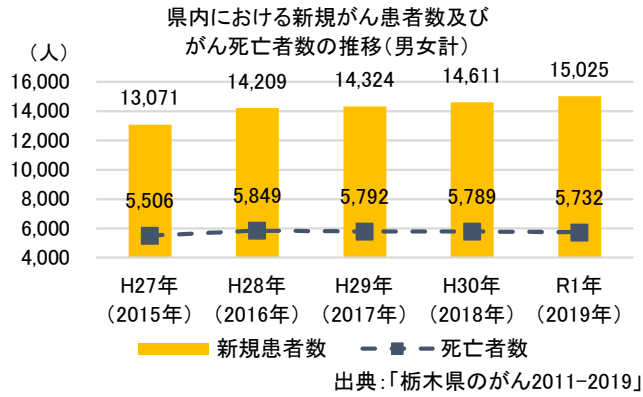
#### 2 ライフステージに応じたがん対策

- (1) 小児・AYA世代のがん対策
  - ア 患者支援の充実
  - イ 医療提供体制の充実
  - ウ 保育環境・教育環境の充実
  - エ 相談支援・情報提供等の推進
- (2) 高齢者のがん対策

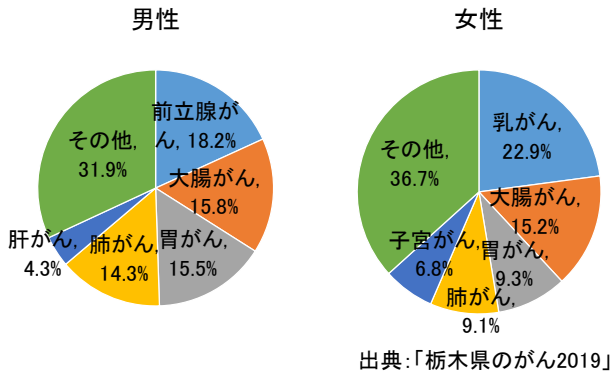
### IV がん対策を推進するために必要な基盤整備

1 人材の確保及び育成等 2 がん教育・普及啓発の推進 3 がん登録等の利活用 4 患者・市民参画とデジタル化の推進

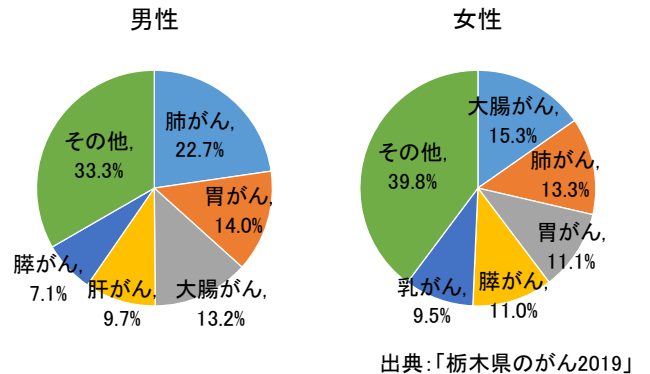
# 県内におけるがんの状況



県内におけるがん種別罹患割合(R1(2019)年)



県内におけるがん死亡の種別割合(R1(2019)年)



## 分野別目標及び主な取組

### I がんの予防及び早期発見の推進

分野別目標 がんによる死亡率の減少

#### 1 がん予防

- たばこ対策**
  - たばこによる健康影響に関する普及啓発、働く世代の禁煙希望者に対する禁煙支援の強化等
  - 効果的な受動喫煙防止対策の推進
- 生活習慣の改善**
  - 働く世代に対する効果的な普及啓発等
- 感染症対策**
  - 肝炎に関する正しい知識の普及啓発、肝炎ウイルス検査の受検勧奨等
  - 肝炎ウイルス検査の陽性者に対するフォローアップ体制の強化、肝炎治療に係る医療費助成等
  - 子宮頸がん及びHPVワクチン予防接種の県民への理解と啓発

#### 2 がんの早期発見の推進

- がん検診の受診率向上**
  - 市町、企業等と連携した効果的な普及啓発
  - 受診勧奨や検診実施等の効果的な取組事例の市町との情報共有
- がん検診の精度管理の促進**
  - がん検診従事者を対象にした研修の充実、検診実施体制等の評価及びその結果の公表、がん登録情報の活用等
  - 市町における精密検査の受診率向上、個別検診実施機関に関する事業評価等の取組の促進
- 職域における取組の促進**
  - 職域におけるがん検診の実態の把握、地域におけるがん検診に関する情報共有等

### II がん医療の充実

分野別目標 すべてのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上

#### 1 がん診療体制の充実

- がん医療の均てん化・集約化**
- 拠点病院等における医療安全の確保、チーム医療の充実、がん医療の質の評価、リハビリ等の取組への支援
  - 栃木県がん診療連携協議会等との連携による、地域の実情に応じたがん医療の均てん化・集約化の取組への支援
  - 拠点病院等と地域の医療機関等との役割分担及び連携強化への支援
  - 各医療機関の医療技術を踏まえた医療提供体制の集約化の推進
  - がんゲノム医療、小児・AYAがん医療、希少がん・難治性がん等の医療体制の整備

## 2 がんと診断された時からの緩和ケアの推進

### (1) 緩和ケアの充実

- ・ がんの診断時からの適切な緩和ケアを提供する体制整備の推進
- ・ 苦痛の把握、主治医と緩和ケアチームの連携強化、緩和ケアの質の評価・改善等の取組の支援

### (2) 地域における緩和ケア提供体制の整備

- ・ 地域課題への取組による切れ目のない緩和ケアの提供体制の整備
- ・ 拠点病院等と地域の医療機関との連携体制の整備、緩和ケア研修会の開催による円滑な地域連携の推進

## Ⅲ がん患者等を支えるための環境づくり

分野別目標

がんになっても安心して暮らすことができる社会の構築

### 1 相談支援・情報提供等の推進

#### (1) 相談支援・情報提供の充実

##### ア がん相談支援センターの利用促進

- ・ 外来初診時から治療開始時まで、がん患者や家族ががん相談支援センターへ訪問する体制の整備

##### イ 相談支援体制の充実

- ・ ICTを活用し、がん患者やその家族が情報を取得しやすい環境の整備
- ・ 栃木県がん診療連携協議会相談支援部会等と連携した、患者サロン等におけるピアサポーターの支援体制の整備

##### ウ 情報提供の推進

- ・ 栃木県がん診療連携協議会等と連携した、がん相談支援センター等の周知

#### (2) がん患者の就労支援

##### ア がん患者等が働きやすい職場環境づくり

- ・ 労働局等と連携し、がんの基本的知識や治療と仕事の両立支援等に関する啓発の実施、事業主等への理解促進
- ・ 「栃木県地域両立支援推進チーム」等の活動を通じた情報共有、がん患者の就労支援に関する効果的な情報提供

##### イ 就労支援体制の充実

- ・ がん患者等の就労に関する相談窓口としてのがん相談支援センターの周知

#### (3) その他の支援

- ・ 自殺リスクに対する相談体制の整備、がんの正しい理解への普及啓発

### 2 ライフステージに応じたがん対策

#### (1) 小児・AYA世代のがん対策

##### ア 患者支援の充実

- ・ 妊孕性温存療法・温存後生殖補助医療費助成、アピランス・在宅ターミナルケア支援、ピアサポーター養成の周知
- ・ がんサロン等におけるピアサポーターの活用
- ・ AYA世代等のがん患者への状況に応じた支援と安心して治療を継続できる環境の整備

##### イ 医療提供体制の充実

- ・ 小児から成人への移行期における診療提供体制、長期フォローアップ体制等の整備の検討
- ・ 栃木県がん・生殖医療ネットワークと連携し、がん・生殖医療に係る体制の整備を推進

##### ウ 保育環境・教育環境の充実

- ・ 療養中における未就学児の保育環境や小中高生の教育環境の充実
- ・ とちぎ子ども医療センター等と連携し、遠隔教育の導入等の活用による療養中の高校生への教育環境の充実
- ・ 小児・AYA世代のがんに関することや退院後における必要な支援等について教員への理解促進
- ・ 退院後の在籍校への復帰状況等を踏まえた必要な支援の在り方を検討

##### エ 相談支援・情報提供等の推進

- ・ 小児・AYA世代のがん患者の就労支援を含めた相談支援体制の整備促進
- ・ ピアサポートや妊孕性温存療法への助成制度等の支援に関する情報の周知

#### (2) 高齢者のがん対策

- ・ 高齢がん患者とその家族等の療養生活を支えるための体制整備

## Ⅳ がん対策を推進するために必要な基盤の整備

### 1 人材の確保及び育成等

- ・ 医療従事者等の緩和ケア研修会の受講促進
- ・ 拠点病院等における人材の確保及び育成の支援、がん相談支援センター等における相談員の資質向上

### 2 がん教育・普及啓発の推進

- ・ 外部講師の活用等、学校におけるがん教育の推進のための必要な環境整備
- ・ がんに関する正しい知識の県民への普及啓発

### 3 がん登録等の利活用

- ・ 医療機関に対する全国がん登録制度等の周知、研修等の実施
- ・ 全国がん登録を活用したがん検診の精度管理の支援、正確ながん情報の提供

### 4 患者・市民参画とデジタル化の推進

- ・ 県民ががん対策に参画しやすい環境の整備、デジタル技術の活用

# 主な指標

※ 「目標値等」の欄に「モニタリング」とある項目は、定期的に推移を把握していくもの

分野	分野別目標	項目	計画策定時	目標値等	
I	がんによる死亡率の減少	がんの75歳未満年齢調整死亡率 (人口10万対)	全がん 67.9 胃がん 7.7 大腸がん 9.7 肝がん 3.7 肺がん 11.3 乳がん 9.5 子宮がん 5.9 R3(2021)	減少	
		がんの5年相対生存率	全がん 63.9% 胃がん 62.7% 大腸がん 68.0% 肝がん 33.0% 肺がん 32.6% 乳がん 93.6% 子宮がん 79.3% (2009-2011)	上昇	
II	すべてのがん患者の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	身体的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	60.8% H30(2018)	上昇	
		精神心理的な苦痛を抱えていると思わないがん患者の割合	65.1% H30(2018)	上昇	
III	がんになっても安心して暮らすことができる社会の構築	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	81.0% H30(2018)	上昇	
分野	個別目標	項目	計画策定時	目標値等	
I	がん予防及び早期発見ができています	がんの年齢調整罹患率 (人口10万対)	全がん 377.5 胃がん 41.9 大腸がん 57.6 肝がん 12.1 肺がん 39.5 乳がん 100.0 子宮がん 33.9 R1(2019)	減少	
		早期がん割合	52.9% R1(2019)	上昇	
II	がん医療が充実している	がんの診断・治療に対するがん患者の総合的評価平均点 ※10点を満点とする評価	8.0点 H30(2018)	上昇	
		納得のいく治療を選択できたと思うがん患者の割合	75.8% H30(2018)	上昇	
		拠点病院 R4 現況報告	院内がん登録数	12,049件	モニタリング
			手術件数	9,353件	モニタリング
			薬物療法患者数	19,039人	モニタリング
			放射線治療患者数	3,083人	モニタリング
			緩和ケアチーム新規患者数	1,128人	モニタリング
医療圏診療実績	—	モニタリング			
III	がん患者やその家族を支える環境が整っている	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	42.7% H30(2018)	上昇	
		がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人	74.0% H30(2018)	上昇	

